



日進中だより

学ぶ生徒 誠実な生徒 鍛える生徒

令和7年 7月 18日

第 5 号

さいたま市立日進中学校

TEL 048-663-1251

FAX 048-663-0834

走りぬき やりぬき 生きぬく ために

校 長 長岡有実子

1学期の教育活動が今日で終わる。日々の学習や行事、大会等、その中で一人ひとりの成長を感じられる場面がいくつも想起される。友情や絆、信頼関係を築くことができた反面、中には気もちの行き違いや諍い^{いさか}もあったかもしれない。でもそれができるのが学校である。すべての経験を、これからの生活に、人生に生かしてほしい。

明日からの夏休みは、少しゆっくりできる時間もある。そんな時、自分の好きなことや得意なことは何か、どんな生き方がしたいかなど自分の気持ちを整理する時間を取り、自分自身の未来を考える時間を作してほしい。夢がすでにある生徒は、その夢を大切に、粘り強く努力し、素晴らしい未来を切り拓いてほしい。

さて、この度、宮澤章二さんの詩集「行為の意味」が宮澤さんの御子息から、中学校に寄贈された。宮澤さんは埼玉県羽生市生まれ、埼玉県やさいたま市に大変縁の深い方で、多くの童謡や校歌の作詞をされた。これまで私も宮澤章二さんが校歌を作詞してくださった学校に勤務していたことがあり、また御子息の新樹さんに職場でお世話になったこともあり、とても馴染み深く感じている。

2011年の東日本大震災の際には、宮澤章二さんの「行為の意味 ～確かに<ここ>はだれにも見えないけれど<こころづかい>は見えるのだ～」という詩が、ACジャパンのCMで放映され、不安でどうしたらよいのかわからない重苦しい日々の心の支えになった。中学生にエールを送り続けた詩人 宮澤章二さんの想いを是非、夏休みの読書の1冊として図書館で手にしてほしい。

『試されている』

宮澤章二

走りぬく やりぬく 生きぬく

そんな ありふれた言葉たちを ひとり 胸に刻みつけようとする日が

ぼくらの暮らしには 必ず ある

ありふれた言葉のように見えるけれど ほんとうは これらの言葉によって
ぼくらの日常も そして生涯も ひと知れず 試されているのだ

走りぬく やりぬく 生きぬく

自分の方向を 自ら そう決めたとき 進む道を美しく照らしてくれる虹が

こころの目に はっきりと見えて来る

希望の登校 笑顔の活動 満足の下校